

「強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。  
あなたの行く所どこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから」  
(ヨシュア 1:9)



ハレルヤ！ 緑のまぶしい季節がやってきました。新学期となり、チア・オフィスにもうれしい進学・就職・結婚・出産等の知らせが届き、とても励まされ、主をたたえています。また、ホームスクーリングをスタートした方や、継続中の皆さんからの相談等も増えています。

チア・につぼんも24年目に入ります。神さまからの知恵と恵みとあわれみの力をいただきながら、全力を尽くして使命を果たしていければと祈っています。

今回のニュースレターには、「超党派多様な学びを創る議員連盟」の中軸を担う浮島智子幹事長（元文科副大臣、衆議院議員）との対談レポートを同封させていただきました（チア・ホームページにも掲載）。ホームスクーリング等、多様な学習の環境整備が神さまの手によって、一步一步、着実に進んでいます。

また、ここまでチア・につぼんを支えてくださった皆さんに感謝を込めて、聖書を土台としたチア書籍を贈呈させていただきます。ある神学者の方から「チアの書籍、教科書は、100年経っても用いられるであろう名著がそろっている」と、励ましの言葉を頂きました。すべて神さまの恵みとあわれみです。神さまからの知恵であり武器である書籍シリーズをますます用いていただければ幸いです。豊かな祝福を祈ります。

昨秋、4年ぶりに開催されたチア・コンベンションは、東京・大阪会場で約700名の皆さんがご参加くださり、主の恵みと励ましの時を持たせていただきました。ご参加くださった皆さん、またお祈りくださった皆さんに心から御礼申し上げます。

文科省、国会では、「いじめと登校拒否 / 多様な教育」に関する取り組みがようやく強化され始め、チア・につぼんにも発言が求められました。私たちのもとにも「いじめ・パワハラ問題」の相談件数が増えています。この問題に関する国会議員や文科省の皆さんらとのやり取りも少し報告させていただきます。

共におられる神さまが、皆さんをますます祝福してくださるよう心から祈っています。

主にありて

チア・につぼん 稲葉 寛夫

## ■目次

1-13 巻頭言

14-19 国会議連でのチア提案のプレゼン配布資料

20-25 コンベンション・アンケート

26-27 慶應大学 大垣教授 (チア・コンベンション、白馬セミナーでおなじみ!) の最終講義

28-31 ボイス&メール

32 予定&会計報告



お母さんの涙、ホームスクーラー OG の笑顔 — 東京会場にて

## チア・コンベンション、恵みとあわれみ、励ましの中で開催

祝福の中で開催されたチア・コンベンションの報告です。東京・大阪両会場に、合わせて約700人の皆さんが、北海道から沖縄まで全国から集まってくださいました。3年半ぶりに全国の皆さんと時間を過ごせたことは祝福であり、喜びであり、楽しく、大変有意義でした。

この3年半の間にホームスクーリングをスタートされた方や関心を持たれた方が、大勢参加してくださいましたことも今回の特徴でした。「新しい若い家族が増えて、関心を強めておられる姿に励まされました」とのベテラン勢からのコメントも多かったです。

ティーンたちも久々の再会を喜びました。その

一人は「4年ぶりでも、キリストにある同じ空気、熱量が続いていて、すごい」と喜んでいました。うれしいことに、卒業生たちの姿もありました。「ティーンたちの面々がガラリと変わった。でも、楽しく盛り上がっている姿に勇気を得た」とのこと。「2代目ホームスクーラーです！」と赤ちゃん連れの参加や、ホームスクーラーママだったお母さんと一緒に3世代で参加している家族など、うれしい姿や出会いがたくさんありました。

基調講演者のヤング夫妻（8人の子どもたちをホームスクーリング）は、ティーンのホームスクーラーたちと接する軸について実践面から話してくださいました。

ご夫妻には6人の息子さんと2人の娘さんがいます。息子さんの1人は学習障害があり、高校レベルまで本が読めなかったものの克服したそうで



学習障害の子どもさんを含め、6人の子どもたちを、全額奨学金で大学に送り、キリストにあって実社会での活躍をサポートしてきたヤング夫妻

す。息子さんたちは全員、大学を全額奨学金で卒業し、今は大学助教授やジャーナリスト、農業の他、学習障害を克服した息子さんは不動産会社を起業しアパート経営を行っています。末の2人の姉妹は、1人は美術関係に進み、末の娘さんは、激しい頭痛や心臓病に苦しみながら美術作品で様々な賞を受賞しています。倒れて意識を失ってしまうことがよくあり、大学を目指せるかがヤング夫妻の懸念でしたが、最近そうした状況を察知して助ける能力を持った救助犬が与えられ、新たな志に向かっていきます。

ティーンへの指導については、聖書にあってしつとけると共に、ティーンたちの話や気持ちに心を向けるよう強調されました。ティーンたちの自立心も尊重し、すべての障害を親が取り除こうとする「除雪車型」の親や、常にティーンの周りを旋回し続ける「ヘリコプター型」の親にならないようにと分かち合ってくれました。もちろん、ティ-

ンと親の関わりは重要で、上記の「たとえ」もバランスは必要ですが、考えさせられる点でした。

「ギフトド」と呼ばれる、神さまから特別な賜物・才能を与えられた子どもたちについては、その天性の才能を親や周囲が摘んでしまわないように留意点を語るなど、新しい分野の講演もありました。

チアの皆さんを愛してやまないジョイス・イノウエさんは7度目の来日講演となり、「学習障害」関連の講演をしてくださいました。最近注目されているニーズの高い分野でもあり、多くの皆さんが耳を傾けました。ジョイスさんは長くパーキンソン病と闘っていますが、担当医の診断によると、「普通は考えられない奇跡的に良好な状態」が保たれ、来日が許されました。

他にもたくさんの素晴らしい講師陣の基調講演、分科会が行われました。CD等に収録してありますので、ぜひ、ご利用ください（●ページ参

照)。

私たちの未熟で至らない点多々あったかと思えます。それでも、神さまと皆さんのおかげで、主の恵みとチャレンジに満ちたコンベンションが開催できました。ありがとうございました(参加者アンケートは●ページです)。

## 法的環境整備進む！ ホームスクーラーを「いじめ問題から守る」ために

文科省の統計によると、昨年、不登校・登校拒否の子どもたちは30万人を超えました。いじめ・パワハラ等、不条理な人権問題に苦しむ子どもや大人も増え、国会・文科省は「不登校・いじめ対策緊急パッケージ」を打ち出しました。「超党派多様な学びを創る議員連盟」(参加者約80名)の総会で、チア・につぽんにも「いじめ・パワハラ問題」に関する発言の機会が与えられました。

チアに寄せられるいじめの相談件数も増えてい

ます。とてもセンシティブな問題です。実際に学校側との話し合いに何度か足を運ばせていただいたこともあります。学校側が姿勢を変え、最終的には解決に向かった事例や、情報提供を続け、解決(学校・教師側が謝罪し、ホームスクーリングを継続)に至った事例もあります。パワハラを起こしたクラブ指導者との話し合いもありました。

「超党派多様な学びを創る議員連盟」の総会では、寄せられた問題の事例から見える現代社会の課題、文科行政の問題点など具体的な提案をさせていただきます。

結論からお伝えすると、文科省の担当課長が私の提案した解決策の一つに心を留め、「ご指摘のあった、いじめ対策防止推進法に基づく『いじめの定義』についての周知の見直し・再検討を進めます」と、出席議員らを前に、異例の具体的な取り組みを約束してくださいました。私は神さまをたたえました。議連総会での提案内容は、巻頭言とは別ページに特別記事を掲載しています(●ページ)。



多様な教育を創る超党派議員連盟総会にてチアからの提案をする著者(4月11日)



にぎわいを見せたコンベンション東京会場にて（東京・大阪で約700名参加）

## 次の大型企画 チア・コンベンション2025秋開催へ

今秋、白馬セミナーを企画していましたが、再検討し、来年秋のコンベンション2025の開催に向けて準備を進めさせていただこうかと思っています。

白馬セミナーは、2001 & 2002年の軽井沢セミナーの拡大イベントという位置づけで、2003年から20年近く継続してきました。昨秋のコンベンションでも、交わりの重要性を伝える声も多く、今秋の白馬に向けて、若者たちや各ホームスクーラーからの期待の声も強まり、残念な面もあります。でも、きっと新たな展開として、神さまが導いてくださっているのではと感じています。

**「いじめ・パウハラ社会でホームスクーラーが聖書的に対応し、伝道に活かしていくために！」**

理由は大きく2つあります。上記の「いじめ・パウハラ社会にあって、いかにホームスクーラーが強く聖書的に対応し、伝道に活かしていくか」というテーマ性を持ったセミナーを準備する必要があると感じたことです。

センシティブな 이슈でもあり、来秋まで、少し時間をかけて準備する必要があると思いました。

もちろん、創立時からのテーマ、『チャーチ&ホームスクーリングー聖書に立つ教育』は、ブレることはありませんけれど。

さらに、コロナ禍後、白馬のホテルの宿泊費は2倍に値上がりし、10月末～12月末までの閑散期はホテルも閉館するなど状況の変化も加わり、順延を確認した思いでした。

**コンベンションで相次いだ  
「いじめ・パウハラ」報告**

最初の「いじめ・パワハラ問題」ですが、昨秋の東京・大阪コンベンションで対策を立てる必要を改めて痛感しました。コンベンションでは、うれしき再会や出会いに恵まれた一方、深刻な「いじめ・パワハラ体験」を分かち合ってくださいる声も多く、驚きました。

LITとして素敵な笑顔で活躍してくれていたAさんが、大学へ進学後、いじめの対象となって苦しんでいる状況、OBとして参加してくれたB君は憧れの職業に就職後、上司のパワハラで退職届を出したこ



と、Cさん親子は担任教師が友人をいじめる姿に心を痛め、その後、本人も教師からのいじめ体験に苦しみ、学校側に訴えても謝罪はなかったこと、ホームスクーラーパパであるDさんは職場の上司からのパワハラで3ヶ月休職となったこと、60代のEさんは「これがいじめられる側の苦しみ、辛さだったのだなー。体験して初めてわかった」と言われたこと。他にも多くの事例を伺うこととなり、とても心が痛みました。

分科会でも、ミッション系の大学でのいじめ、その後、いじめと対抗する知恵が与えられ、状況を変えていったFさんの証しもありました。Gさんは、いじめが原因で言葉が発せなくなります（場面緘黙症…極度に緊張し、言葉が発せなくなる）。その後、チャーチスクールに導かれ、主にあつての使命に目覚めていきました。しかし、意識障害の症状は進み、27歳で天国へと召されま

す。そうした声を聞く中、「いじめ・パワハラ社会の中でホームスクーラーが輝き、良き隣人として証ししていくために」といったテーマのイベント

を企画していくという、新しい志が与えられてきました。

とはいえ、「いじめ・パワハラ」はセンシティブな問題です。すでに、いじめを体験したご家族のために「PTSD」への対応も必要です。法的な環境整備も必要です。

そうした方面に詳しい講師陣を備えていくためにも、しっかりと準備し、2025年秋に開催してはと思いました。

## 「いじめ・パワハラ問題に強くなる4つのポイント」

「いじめ・パワハラ問題」に聖書的に対応するために、チアとしては以下の3点を学んできました。

### ①備えと対策の必要性

「いじめ・パワハラ」は、想像を超える深刻なダメージを、子どもにも大人にも及ぼします。適切な対応・対抗をしないと、いのち・人生・ミッションを損ないかねません。誰にでも起こり得る

ことなので、備えや学習が必要です。

聖書に「わたし（キリスト）は狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい」（マタイ10:16）とある通り、備えと対策、思慮深さの必要性を覚えます。



心のふるさとに帰ってきたホームスクーラーOBたち(大阪会場)

## ②聖書的かつ法律的な対抗策

上記の対策はほとんど認識・実践されていないため、泣き寝入りのケースが圧倒的に多いです。

法律の専門家でも認識していないか、無視する

ケースが多いと言えます。これまでチアが関わった「いじめ問題」でも、学校・教師側が「いじめ防止対策推進法」で定められた「いじめは、いじめられた側が心身の苦痛を感じたら、そこでいじめと定義する」と

の法律（いじめ防止対策推進法2条）の理念に違反しているケースがありました。

旧態依然とした「遊びのつもりだった」「証拠がない」「喧嘩両成敗」といった「いじめた側の言い訳の論理」で動くことは、違法行為です。法律や丁寧な状況証拠の記録、また、一人ひと



コンベンション 東京会場にて

りのいのちの尊さや人権の尊さを説く「聖書の理念と祈り」をもって、勇気をもって強く接していく必要があります。このような対応により、学校側・加害者側が謝罪し、対応を変え、解決に向かっていく事例が多数あります。

しかし、PTSDなど被害者側のダメージは簡単には回復しません。そのためにも、しっかり「聖書・法律に基づく対応策・対抗策」の啓発を図っていく必要があります。

ホームスクーリングは、集団や社会に付度することなく、聖書を土台として歩み、伝道の心を持った子どもたちを育てていく働きです。世の中の流れとは違うホームスクーラーは「いじめ・パワハラ」のターゲットとなる可能性もあります。そうした動きに事前に備え、対処していくことで、福音が広がるために用いられていく可能性も高いです。

### ③いじめられている人に寄り添う安全基地へ

いじめによって不当に苦しんでいる方々に寄り添うことが、良き助け、福音を知らせるポイントとなり得ます。

被害者の絶対的な安全基地となる親や家族・友人等の存在が重要になり、福音・神様とのきずなを深める窓口となります。

### ④神様はすべてを知り、共にいてくださっている

人間の罪の本質、残酷さを知っておられる神さまは、いじめ・パワハラ体験のすべてをご存じで、苦しんでいる一人ひとりといつも共にいてくださいます。また、その神さまと共に生きていくことが私たちの指針です。第一テサロニケ5章10節に「主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目を覚ましていても眠っていて

浮島 智子 元文科副大臣

(「多様な学びを創る」超党派国会議員連盟幹事長)

## 「ホームスクーリング等、多様な教育」 ポジティブな選択肢 としての確立を！

聞き手 チア・につぼん代表 稲葉寛夫



も、主とともに生きるようになるためです」とある通りです。

## 国会での法的環境整備進む Part2 浮島智子議員とのインタビュー記事 完成！

国会における議連総会で提案を行うと同時に、関係議員の皆さんとの個人面談も進めています。

「超党派多様な学びを創る議員連盟」幹事長の浮島智子衆議院議員（元文科副大臣・衆議院文科委員会理事・公明党）とのインタビュー記事が完成しました。公明党の文教関係を始めとする実力者の一人であり、ホームスクーリング等、多様な教育の法的な環境整備を進めるためのキーパーソンの一人です。

今回は、特に「ホームスクーリング等、多様な教育——ポジティブな選択肢としての確立を！」を目指し、教育機会確保法の改正に向けてチア・につぼんから法文の提案を行いました（提案書の詳細は別誌のインタビュー記事13ページ参照）。

浮島議員との個人面談は、「教育機会確保法案」が大詰めを迎えていた時に続いて、3回目です。

浮島議員は、完成したチア・につぼんの特別誌を読んで喜ばれ、秘書さんから「改めて、本人が目を通し、素晴らしい内容に驚き、感動しておりました。印刷費をお支払いしますので、800部送っていただくことは可能でしょうか」とのうれしい連絡をいただきました。私たちからは贈呈を申し出ましたが、ご本人からも「素晴らしい冊子、驚

きました。ありがとうございました。また増刷お願いさせていただきます。請求書も一緒に下さい」と、忙しい中メールをいただきました。

浮島議員らを通して、関係者の皆さんが読んでくださることも、とても光栄なことと思います。こうした予想を超えた展開が許されていくことも、皆さんの様々なサポートのおかげです。本当にありがとうございました。引き続き、神さまの祝福と恵みをお祈りください。

（追記 以前、面談を重ねていた日本共産党の田村智子参議院議員が日本共産党の委員長に選出されました。田村議員への神様の祝福も祈っていたら幸いです。）

## おじいちゃんとなりました！ 小さく生まれ、大きく育つ！

最後に私事ですが、主を賛美する2つの出来事をお知らせします。

昨年12月7日に、ワシントンDCで暮らす長男の真祈史に息子が生まれ、私もおじいちゃんとなりました。

2400グラムほどの胎児で、医師が心配し、帝王切開で生まれました。幸い、その後、健康に育っています。多くの皆さんが「小さく生まれ、大きく育つ」と励ましてくれました。

名前は真祈夫（まきお）・イザヤ・稲葉です。「名前を付けて！」と言われ、ジョセフ（15）が考え、家族もみんな賛成し、特に真祈史とレイチェル夫妻が強く賛同しました。

真祈史が誕生した時、ドキュメンタリー制作で4年間、お世話になり、その後も大変親しくさせてもらっていた三浦綾子さんに名付け親になっていただきました。綾子さんが事前に付けた名前は「真祈」。生まれたら男の子だったので、「真祈太郎、真祈の進、真祈助、真祈夫」といろいろと考



真祈夫（マキオ）くん、誕生！

え、真祈史としました。その話をすると、今回は「真祈夫がいいね。真祈史とダディの名前が一つになっているし」とのこと。2月末にワシントンDCで初対面し、うれしく、また不思議な思いがしました。

その翌日、よく面倒を見てくれる、真祈史の妻、レイチェルの両親に「真祈夫は、泰然自若（Calm）で、いろいろと深く考える思想家のようだ」と伝えたと、日頃は元気満々らしく、「えっ、泰然自若（Calm）かな（笑）？ Hiroたちと会って、穏やかで平安な『振りをした』んだと思う（笑）」と大笑いでした。

預言者イザヤのようによく祈り、世の人々に元気に福音を伝える人になってほしいと願っています。お祈りいただければ幸いです。

ちなみに、ミルクはよく飲むそうで、体重は日本の赤ちゃんの平均体重の一番軽いあたりまで増えてきています。

真祈夫誕生の写真を見て、とても喜んでいた私の母ですが、12月23日、コロナ、肺炎等で、天国に召されることとなりました。

ずっと介護をしてくれた妹光子や親族、故郷の弘前の教会の皆さんのおかげで、神様への賛美に満ちた召天式を行うことができました。母のことは、後日、改めて皆さんにお伝えできればと思います。

## ジョセフ、ホームスクーリングと野球部の夢、かなう！

次男ジョセフ（15）が、野球とホームスクーリングをどちらも継続できる高校に合格できまし



た！

昨年5月、腰椎骨折のケガ（全治5ヶ月）で皆さんに祈っていただきました。ジョセフには「日本人やアジア人は野球が好きだ。野球を通して、神さまの福音を伝えたい」という志は、与えられ続けました。

強豪校のスカウトたちが見学に来る主要な大会は、ケガのためすべて欠場となりました。しかし、『弱さこそ力です（第二コリ12:10）』。ここから不思議な展開がありました。

知人や監督らの紹介で、7つの高校（甲子園出場3校を含む）のスカウトや監督たちから野球推薦入学のお招きをいただく恵みにあずかりました。それはまさに神さまの奇跡でした。医師からは「完治の可能性は60%。野球断念のリスクも40%と高い」と診断されていた時期です。その苦しみの中で、7校からの推薦入学のオファーは、神様が

らの大きな励ましでした。

その7つの高校の中に1校だけ、ホームスクーリングを継続でき、野球もしっかりと取り組めると思える「A高校」がありました。A高校には、全日制に加えて通信制もあり、通信制のクラスから1~2名が野球部に入部できるとのことでした。ケガで安静中のジョセフは、野球推薦希望者のトライアウトや見学会はまったく行けませんでした。 「ジョセフ君の完治をいつまでも待っていますので大丈夫です。入部を楽しみにしています」と、事あるごとに何度も励ましてくださいました。

全国的に通信制高校は大流行で、東京都では今年初めて12%以上の生徒が通信制に進学するそうです。そうは言っても、通信制の野球部で本格的な活動をしているところはほとんどありません。

スポーツや芸術などの賜物や召しのあるホームスクーラーのために、全国の通信制高校に入学し、成長する機会も拡げられたらと願いました。

約30年前のアメリカで、ホームスクーラーがアメフトの全米大会に出られるように、ティム・ティーボー（後に全米で注目を集めたデンバー・ブロンコス司令塔クォーターバック）の家族らが働きかけ、道が開かれました。それで日本でも、と思い、5年前、通信制を持つ甲子園出場校をリサーチした時には「野球部は別です。全員、寮に入ってもらいます。ホームスクーリングはできません」といった返事をいただきました。

けれどもこの5年、祈り求めていたところ、中学チームの監督の紹介で、上記のA高のスカウト部長さんや監督さんと出会う機会が与えられました。

A高校は、著名な女子高を買い取ってできた新しい高校です。野球部は、チア・オフィスに近い、所沢にある本格的なグラウンドを使用しています。全日制と並行し、通信制もあり、通学は1ヶ月に2-3回で、あとはホームスクーリング主導でできます。

野球部は、1月にアメリカ短期留学制度（2週間

ほど）がある点も大きな魅力でした。監督さんから「ジョセフは別行動で、1ヶ月以上アメリカにいていいよ。アメリカの良いものを持ち帰ってくれ！」と励ましてもらえたことも決め手の一つでした。アメリカに選手を派遣するチームなど、日本の高校野球ではほとんど聞いたことがありません。そのような野球部は、とても稀有な存在であり、まさに神さまがジョセフに準備してくださった野球部なのではと、本人も私も思いました。

中学の内申点も条件の一つでしたが、勉強の準備もしていたのでクリアできました。こうして、神さまが準備してくれた高校だという平安と喜びの確信の中で、進学を決断しました。

## 埼玉県A市教育委員会 『ホームスクール実施』を不登校理由の選択肢の一つに明記！

2004年から4人のお子さんをホームスクーリングしてこられたHさんから、うれしい知らせが届きました。

「今春、息子が中学に進学するので、教育委員会で手続きしました。法に触れる云々の書面に、例年通り理由と署名をするものかと思いきや、なんと『ホームスクールのために通わない』という選択肢のある書面が用意してありました。ここ数年の間に、手続きに『ホームスクールが当たり前の選択肢』のような形が備えられていたことに驚きました。

その後の中学の校長との面談も、とても温かいものでした。こちらが申し訳なく感じるほどでした。主のあわれみと守りがあったとただただ感謝しております。チアの働きがますます祝福されることを祈っています」

## 困難の向こうにある天国 — 神さまは共におられる

神さまは、私たちが主にあって力強く輝き、福

音を伝えていくために、私たちが刈り込み、鍛え、時至って、羽ばたかせてくださいます。

先日、年商800億円以上の会社をご夫妻で起業されたI元名誉会長と話す機会が与えられました。

「いじめ・パワハラ問題」についてご意見を伺うと、「神さまがいつも共におられること」「時に、忍耐力を試されるけれど、神さまはすべてをご存じで、良くして下さること」を学んだと分かち合ってください、とても励まされました。

ご夫妻もまた、ビジネスをしていく中で、いじめ・パワハラで不条理な扱いを長く経験され、ひどく苦しまれたそうです。しかし、長い年月が過ぎた後で示されたことは、主は、自分たちが不当な扱いを受けていた時にいつもそばにおられ、そのすべての苦しみを知っておられたということ。そして、時にヨセフ、ヨシュア、ヨブらの忍耐を経験させながら鍛え、時至って自分たちを高く上げ、伝道の機会を拡げてくださったそうです。

聖書のヨシュア記の通りですね。「強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの行く所どこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから」（ヨ

シュア1:9)

I夫妻の次男で、年商400億円の会社を起業し、グループで年商800億円の企業を手放して牧師・開拓教会の道に進んだJ牧師は、次のように話してくださいました。

「主は、共にいてくださることに加え、私たちが主と共に生きるようにしてくださいました。第一テサロニケ5章10節にある通りです。『主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目を覚ましていても眠っていても、主とともに生きようになるためです』」

共にいてくださる主がすべてをご存じで、最善をなして下さることを信じ、ますます主と共に歩いていけるようにと祈っているところです。

2025年11月末～12月に計画しているコンベンションを覚え、祝福を祈ってくだされば感謝です。今秋には別の企画を検討しているので、そちらもお祈りください。

皆さんの上にもますますの祝福があることを心から祈ります。

チア・につぼん  
稲葉 寛夫



チア・コンベンション 東京会場にて

# 国会議連 チア・にっぽんからの提出資料

## (4月11日総会用)

### 神様の恵みと力あふれる法的環境整備 —国会・文科省等との最前線より

ホームスクーリング等、多様な教育を進める大きな助けとなっている「教育機会確保法」。

「多様な教育を創る」超党派国会議員連盟は、同法の成立母体であり、今は、その改正を含め、さらなる環境整備を目指して力を注いでくださっています。

総会では、現場からの声として、チア・にっぽんからも、提案・意見を求められます。

今回は、4月11日に開催された総会で、実際に全参加者に配布した資料を掲載し、皆さんに、神様の恵みと力あふれる国会・文科省の様子を、さらに実感していただければと祈りつつ、レポートさせていただきますね。

#### <資料目次>

- ① 埼玉・A市教委  
「ホームスクーリングを  
不登校理由の選択肢へ！」(P12参照)
- ② 「浮島智子議員」インタビュー(別冊)
- ③ 「いじめ・パワハラ対策への  
2つの提言」
- ④ 「文科省が教育機会確保法の  
パンフレット作成！」
- ⑤ 「チアからの提案」



## 資料3 多様な教育・ホームスクーリングの 法的環境整備進む！

### —いじめ/パワハラ問題への2つの提言— (チア・にっぽんホームページブログ[www.cheajapan.com](http://www.cheajapan.com)より)

衆議院国会議員会館で「超党派多様な学びを創る議員連盟」の総会が11月14日に行われ、文科省が今年度、力を入れている「いじめ・不登校緊急対策パッケージ」について、チア・にっぽんや現場に携わる支援団体らに意見が求められました。

## 【要約】

特にいじめに関しては、実際にチアに寄せられているケースを事例として話し、2つの提案をしました。

### ■第1 「いじめ」の定義の啓発・周知徹底

第一の提案は、法律に基づく、「いじめ」の定義の啓発・周知の徹底です。法律（「いじめ防止対策推進法第二条」の定義）には、「本人が苦痛を感じたら、いじめである」と定められています。今も、「遊びのつもりだった」等の加害者の論理や、「けんか両成敗」、「証拠がない」等、いじめ・パワハラを曖昧にして、被害者を惑わし、論点をずらす手法が横行しています。法律を啓発・周知し「被害者を守る」必要があります。

多くの悲劇と検証を経た中で、同法では「いじめられた子どもが、苦痛を感じたら、すなわち、『いじめと認定する』」との定義が、法律の文言に記されました。2条に以下のように定められています。

「いじめ」とは、「当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」  
(いじめ防止対策推進法2条)

しかし、この定義の周知や認識が不十分なため、30年前と同様に、「いじめかどうか」は不明とされ、「加害者への追及」は緩み、防止や追及が不十分なまま深刻化していくケースが多いです。チアに寄せられているケースも同様です（大学進学、就職後での事例を含む）。

学校の教師・一般の職場等も含め、「いじめの定義につ

いての認識が、いじめ防止対策推進法に基づいておらず、いまだに『自分はいじめたつもりはなかった』とか『証拠がない』『いじめられた側にも瑕疵(かし)がある』とか、喧嘩両成敗に基づき、いじめではないとの認識にもっていこう、事を大きくしないで、なかったことにしていこうという傾向があります。教職員やスポーツチームの監督・コーチ、また社会人の上司らの対応によって、いじめられた子どもの心がさらに破壊される深刻なケースもあり、二次被害を受けている子どもも多数いる」というポイントから、同法2条の「いじめの定義」について、一層の啓発・周知の徹底を提案しました。

### ■第2 いじめは犯罪・厳罰導入

2つ目の提案として「いじめは犯罪であるとの意識のなさ。厳罰の導入の必要性」などを、訴えました。中学校で「いじめセミナー」が開催された翌日に、5人の子どもたちに囲まれたいじめ案件等も、チアに寄せられました。加害者に、犯罪であることの意識、また厳罰等があることの認識が薄い状況を思います。

文科省初等中等局児童生徒課の伊藤史恵課長は、



「多様な教育・いじめ問題」をめぐる議連総会でチア・につぼんからの提言を発表する筆者

総会の総評として、チア・にっぽんが提案した解決策の一つに心を留め、「ご指摘のあった、いじめ対策防止推進法に基づく『いじめの定義』について周知の徹底について等、検討します」と、総会の出席議員らを前に、具体的な取り組みの約束をしてくださり、感謝でした。

いじめ・パワハラ問題は、社会に出たホームスクーラーたちも含め、日本の多くの子どもたち、大人たちが直面している問題です。チア・にっぽんへの相談も増えています。

ホームスクーラーたちは、親が愛情と時間を費やしていく中で、比較的守られているケースが多いですが、進学・就職と進んだ後でのいじめ・パワハラの報告・相談も増えており、今は大丈夫でも、将来に向けて、聖書的に備えていく必要があります。

社会全体で深く病んでいるこの問題に光を当てていくことは、微力ながらも、世の光、地の塩としての必要な取り組みになっていくのでは、と思

わされてもいます。2025年11月には、「いじめ・パワハラ社会の中で、ホームスクーラーが輝き、人々をサポートしていくために」とのテーマでチア・コンベンションを開催予定です。お祈りいただければ幸いです。

「多様な学びを創る超党派議連総会」で配布した資料

☆チア・にっぽんからのアップデートと本日の総会議題への提案等

☆いじめの定義 「弁護士グループ「授業」続け10年」朝日新聞2023年10月22日

☆「いじめ重大事態早期対応なお課題」朝日新聞2023年11月5日

ほか



議連総会で答弁する文科省初等中等局 伊藤史恵課長（当時）

## 資料4 文科省が教育機会確保法

### パンフレット作成！

## —子どもたちの尊厳と可能性を伸ばすために！

(チア・にっぽんホームページブログ[www.cheajapan.com](http://www.cheajapan.com)より)

文科省から、「教育機会確保法」のポイントをコンパクトにまとめたパンフレット「教育機会確保法って何？」が、文科省ウェブサイトでの掲載が始まりました。

学校・教育委員会との面談や、祖父母・ご友人の皆さんとのお話の時に、「ホームスクーリングよくわかるパッケージ」(チア・にっぽん刊)と共に用いると、便利と思いますので、お知らせします。

教育機会確保法※の基本的な考え方をお伝えします！

不登校児童生徒等への支援についての法律

# 「教育機会確保法」 って何？

この法律は学校以外の場所で行う多様な学習活動の重要性について書かれており、不登校の子供たちに対する支援や夜間中学における就学の機会の提供等を規定している法律です。

- 不登校の子供たちへの支援
- 義務教育未修了者等が学べる夜間中学を設置



文科省HP「教育機会確保法パンフレット」で見つかります。

同パンフレットの印刷・全国配布案等をめぐり、文科省初等中等局の伊藤史恵課長、また金子道仁参議院議員と話す機会がありました。

金子議員は、面談の翌日、参議院文科委員会で盛山正仁大臣との質疑に立ち、文科省制作のパンフレットを用いた「多様な教育・ホームスクーリング/フリースクール」等の周知活動に向けて、ました。(詳細を下記にレポートします。)

まだまだ一步一步ですが、神様の助けの中で、「多様な教育・ホームスクーリング等の法的な環境整備」が進んでいます。

## レポート 「教育機会確保法・周知の向こうの子どもの尊厳と可能性と神様の恵み」

11月14日に開催された「多様な学びを創る」超党派議連総会にて、チア・にっぽんからはアップデートと共に、文科省が打ち出した「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」についてチアからの提案を行いました（詳細は12月15日記事「ホームスクーラーをいじめ問題から守るために」参照）。

さらに、チアからは、以前からリクエストしていた文科省の関連ウェブサイトの改善点等への評価も伝え、感謝を表しました。

（稲葉）「一昨年から、文科省ホームページの「多様な教育」コーナーを見やすくする必要等の要望を伝えてきました。（笠浩史元文科大臣や「多様な教育を創る超党派議連」での提案を通して。）2022年当時は、文科省ホームページで「不登校」と打つと、審議会議事録等のタイトルが1000以上、掲載され、ほとんど、核心部分の必要でわかりやすい情報にたどりつけませんでした。

最近の文科省のHP「不登校・いじめ緊急パッケージ」コーナー等、とても見やすくなってきていて、前進が見られます。多様な教育・ホームスクーリングをめぐる、文科省、法律面からの新しい環境について、効果的な周知活動をして理解を進めていくために、引き続き、よろしくをお願いします」

**誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)について:文部科学省 (mext.go.jp)**

**教育機会確保法パンフレット (mext.go.jp)**

**不登校:文部科学省 (mext.go.jp)**

議連総会終了後、関係者の皆さん方と、文科省

初等中等局の伊藤史恵課長と話す機会がありました。

「教育機会確保法のパンフレット、とても良いです。全国の皆さん用に印刷して、いつ配られるご計画ですか？」とのフリースクール団体の代表者からの質問に対し、伊藤課長は、「都道府県の教育委員会にはお伝えしました。しかし予算がないので印刷できないですし、全国の学校や保護者の皆さんには配れません。全国の教育委員会には事務連絡をしました。あとは、ダウンロードしていただいとお願いし、、、」とのことで、失望の声が上がりました。

**「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）」の周知に関するパンフレットの送付について (mext.go.jp)**

その翌日、私は、金子道仁参議院議員から「教育機会確保法の改正案」について意見を伺いたいとお話をいただき、1時間ほど面談をさせていただきました。

面談中、前日の議連総会後に伺った伊藤課長の「教育機会確保法のパンフレット、予算がないので、全国の各学校や保護者の皆さんには配れません」とのポイントを伝えました。

「(金子参議院議員)それは、とても大事なポイントですね。明日、私には、参議院文科委員会にて、大臣との質疑の時間が与えられています。パンフレットや周知問題について盛山正仁文科大臣との質疑で取り上げさせていただきます」とのことでした。

私からは、その旨、伊藤課長にも、感謝をもって連絡しました。

翌日の参議院文科委員会での質疑において、まず金子議員は、いじめ問題の対策法等を次回以降、



「教育機会確保法」周知について、盛山文科大臣と  
質疑する金子道仁参議院議員

取り上げていくことを少しふれ、次回につなげて  
くださいました。(金子議員には、チア提案のいじ  
めの防御策2点、「いじめの定義は、いじめ防止対  
策推進法2条に基づき、『被害者がいじめと感じた  
らいじめである』に徹底して、防止対策に向かう」  
「いじめは犯罪 ー刑法にふれ、逮捕・犯罪歴とな  
る点の明確な提示と指導」という具体的な対策等  
について、提案させていただいています。神様が  
いじめの不条理な破壊的な現場のすべてをご存じ  
で、また、最善をなしてくださる計画をお持ちで  
あるこのテーマ、防御策・武器を、一  
人でも多くの子どもたちに身に付けて  
いただき、いじめ・パワハラに効果的  
に対抗していただければと祈っていま  
す。)

その上で、上記の教育機会確保法  
パンフレットの配布も含めた「多様な  
教育の法的環境の周知活動の徹底」に  
ついての質疑を行い、次回の質疑につ  
なげてくださいました。詳細は進展を  
見つつ、後ほど、レポートできればと  
思っています。

「いじめ対策」にしても、「多様な教

育ーホームスクーリング・チャーチス  
クール等の周知活動」にしても、我ら  
の主、イエス・キリストが、子どもた  
ちのひとりひとりの自由と尊厳と将来  
への大きな可能性を見つつ、いつもそ  
ばにいてくださっていること、そして  
国会、文科省といった法的環境の整備  
の最前線にもいてくださり、無限の愛  
と計画を立ててくださっていることを  
思われます。

子どもたちの尊厳と可能性と神様の  
恵みの深さに感謝しつつ、文科省から  
のパンフレット、その周辺の動きの情  
報をお届けさせていただきました。皆  
様へのますますの祝福を祈っています。

心から感謝しつつ

チア・にっぽん代表  
稲葉 寛夫

(教育機会確保法パンフレット (mext.go.jp) )



# チア・コンベンション 2023

## アンケート



### 【大人】

●久々の対面でのコンベンションはやはり嬉しかったです。今回は、これからHS始まりますというご家族が多かった印象を受けました。天候も守られたので、子どもたちも代々木公園に遊びに行けて良かったなあと思います。

今回は基調講演・分科会を通して、もっと子どもの話に耳を傾け、関心を持って聞き、褒め、子どもが伝えたがっていることを忍耐強く聞き出し、もっとコミュニケーションを取りなさい、と言われたと感じました。良きチャレンジを受け取りました。

(神奈川／Aさん)

●たくさんの恵み、励ましを頂きました。コンベンションを通して神さまが語って下さったこと、みことばを握って、神さまが与えて下さった機会を無駄にしないように日々歩みたいと思いました。

(広島／Bさん)

●久々のコンベンション、ホームスクーラーのご家族、丸森の方たち、懐かしいお顔にお会いできて、ほんとうに嬉しく、元気をもらいました。「チアの集まりでこれまで毎年、力をもらってきたのだな～」と改めて感じました。

初めてお会いするご家族もたくさんいらして、ホームスクールの波が続いていることを感じました。コンベンションが再開されて本当に嬉しいです。(東京／Cさん)

●とても良かったです。特に、基調講演で、子どもに無理を強くないこと、その子のペースがあること、それこそがホームスクーリングをやっていくメリットであるのに、親が焦ってしまっていること、神さまのご計画と導きに信頼を置くべきことを教えられました。

欠けの多い親としては、本当に良い学びの機会でした。また、久しぶりの方も、初め

ての方も、多くのホームスクーラーにお会いすることができ、原点に戻る良い機会となりました。(沖縄／Dさん)

●開催の1週間前にチアを知り、すぐる気持ちで参加しました。初参加でしたが、信仰を同じくする大勢の人々と共に賛美や分科会に出ることができ、励まされました！

(千葉／Eさん)

●大変素晴らしかったです。ヤング夫妻の具体的なセミナーは、家族や子どもとの健全な関係構築を学ぶ上で大変参考になりました。久しぶりにリアルな集いに集うことができ、ホームスクーラー同士が共に交わる機会が与えられて感謝です。チアの存在は、これからホームスクーリングに取り組もうと考えておられる方々にとって、かけがえのない存在だと思います。

(広島／Fさん)



●ありきたりの言葉になりませんが、素晴らしかったです。毎年必ず参加していたので、3年間もコロナで開催されなかったことが、今さらながらちょっと悲しく感じてしまうほど良かったです。

ホームスクーリングは終わりに近づいているので、基調講演を聞きながら「こうできなかったな、ああできなかったな、あんなことをしなければ良かったな」と振り返っていました。悔い改めることが多く、コンベンション終了後、心から娘に謝りました。それは、ホームスクーリングが終わりに差し掛かっている私たちに必要なことだったと思います。

分科会でお話しさせていたいただきましたが、18年間の集大成ということで、感謝の気持ちを込めて娘も初めて分科会に同席しました。今までを振り返る良い機会になりました。

ホームスクーリングの仲間たちと分科会を回ったり、一

緒に食事をしたり、分かち合ったりして、楽しかったです。親も子も笑顔で、みんな輝いていました。天国の雰囲気でした。(広島／Gさん)

●4年ぶりのコンベンション開催ありがとうございます！毎年行われるのが当たり前だと思っていた自分に気づかされました。4年間なかったことにより渴きが一層与えられたと思います。

直前まで家族が順番にインフルエンザにかかり、参加が危うい中、主がもっと祈るように言われていると思いました。ぜひ参加できるように、また今回主が私に語られることを聞けるように、私たちが改善すべき点などを教えられるように祈って臨むことができ、感謝でした。

やはり同じ目的を持って日々奮闘している仲間との交わりや講演は感謝でしかありません。また頑張ろうと励ましを受け、もっと肩の力を抜

いていいと気づかされ、今後の勉強のヒントもいただくことができました。

(大阪／Hさん)

●開催直前まで、参加者のネットワーク作りのためにご尽力くださって感謝します。初めてご挨拶する方が「あ、リストでお名前を見ました」と言ってくださったり、私もお名前を確認できたりして、とても助かりました。住んでいる地域や子どもたちの年齢の情報もありがたかったです。また、お会いしたことのない東京の参加者の方も大勢おられることを知り、励まされました。

これまで何度かコンベンションに参加していたものの、チア会員ではありませんでした。経済的なこともあり、機会がある時に参加させていただければと、部外者の気持ちでした。

でも最近、私にも子どもにも、サポートされている安心感や、つながっているという



心強さが必要だと考えるようになり、チアのネットワークに加えていただきたいと願っていました。今回も、部外者でなくメンバーとして参加したいと思い、入会と参加のお申し込みを同時にしました。結果、気持ちだけの問題ですが、「ここに居ていいんだ。たくさん受け取ろう！」と遠慮なく過ごすことができました。

子どもたちもとても楽しい時間を過ごしたようで、ケアしてくださったご奉仕の皆さんに心から感謝いたします。

長男は帰り道、やったことを全部説明してくれました。LITの皆さんと過ごし、とても楽しかったようで、「次はLITになりたい」と言っています。次男は、長男が全部話してしまうので言葉は少なめでしたが、「とても楽しかったと満足気」でした。三男は、ケアしてくださったお姉さんたちがみんな親切で「大丈夫でしたよ」「こんなことをしましたよ」と教えてくださり、本当に心

強く、ありがたかったです。

おかげさまで親子ともども、たくさんの学びと励ましを受け取ることができました。ヤングご夫妻の話し方がとても素敵で、理想の夫婦像を見るようでした。ご夫婦が一致している様子を見て、私ですら嬉しく安心感を覚えるのなら、子どもたちはなおさらだろうと思います。目指したいお手本を見せていただけて感謝でした。(大阪/Iさん)

●「さまざまなことを自分の力で成し遂げるのではなく、主に信頼し、主の恵みにとどまり続ける者でありたい」。これが、今回最も思わされたことです。

召しを頂いた者として、遣わされた地で気落ちせずに歩み続けるためには、やはり目に見える形で励まし合える仲間が存在が不可欠です。コロナ禍の中、ある意味守りの中にありましたが、私たちがずっと必要としていたのはこの交

わりだったのだと思いました。今回、初めてお目にかかる若いご家族が何家族もおられて、これからは備えているという話を聞き、とても励まされました。

大人も子どもも期待以上に楽しむことができました。成長したよその子どもたちの姿を見て、思わず3年という年月の重みを感じてしまいました。若いご夫婦との出会いも嬉しかったです。

(岡山/Jさん)

●久しぶりのコンベンションで、子どもたちの成長と共に、世代交代を感じました。我が子も含め、これまでチルミニで遊んでいた子がLITで奉仕をする姿に、胸がいっぱいになりました。今までの恵みに加えて、初心・初めの愛に立ち返る時でもありました。新しい方々との出会いも嬉しく、懐かしい方々との再会も嬉しい2日間でした。

今回、ジョイス・イノウエさ



んの「子どもを祝福する」分科会に出て、内容としては以前も聞いたことがあったのですが、「知っている」と「やっている（実践している）」のでは大違いで、毎日の積み重ねの祝福の大きさを思い、反省しました。

また、ジョイスさんが「子どものために祈る時、これが最後かもしれない、と思って祈ること。それが祈りをきよめ、正しいものとする」とおっしゃっていて、本当にその緊張感や思いの大切さ、子どもを祝福することのできる親の特権を思い、涙が出ました。

昨夏、思いがけず、あっという間に父が最期を迎えたので、「いつが最後になるかは分からない」との言葉は本当に大切だと思います。だからこそ、今このような時代を迎えて、「再臨に備える」分かち合いをして下さったダニエル園長のメッセージも深く心に残っています。

(神奈川／Kさん)

●久しぶりの参加が想像以上に嬉しく、涙が出そうでした。やはりこのような励ましを必要としていたのだなあ、としみじみ感じた2日間でした。

2日目の基調講演「恐れからの解放」に、とても励ましを受けました。子どもたちは一人ひとり、神さまによってユニークに造られたと知ってながらも、他の家庭と比べて、恐れている自分がいたように思います。神さまが、子どもや家庭に何を望んでおられるのかを祈りの中で教えられながら、神さまの目的を信頼して歩みたいです。

私がホームスクーリングを始める時は、チアの働きのおかげで、学校との面談も含め本当にやりやすくなっていました。長男のHSも残りが2年余りとなり、頂いた恵みを、今度は他のご家庭の励ましやサポートでお返しできればと祈っています。(広島／Lさん)

●主が豊かに注がれる恵みと日本中のホームスクーラー家族との出会いで、心が満たされた時間となりました。

(静岡／Mさん)

●初めてのコンベンションに家族そろって参加することができ、またホームスクーラーの皆様とお会いできてとても嬉しかったです。息子もLITに初参加させていただき、ありがとうございました。

基調講演・分科会では皆様の経験を分かち合っ下さり、神さまからの知恵とたくさんの励ましを頂きました。祝福いっぱい2日間で、大阪のコンベンションにも行きたくなくなってしまいました。

(東京／Nさん)

●参加して本当に良かったです。ちょうど我が家の長男もプリティーン真っ最中!! なので今回のヤング夫妻のメッセージはこれからの心の備えになりました。しっかりメ

そして、教会のママ友にも恵みをシェアさせていただきました！ たくさんのホームスクーラーに出会え、息子もすごく嬉しそうでした。「また行きたい!!」と言っています。

(大阪／Oさん)

●長いブランクの後の再開をうれしく思った。講演はどれも良かった。励まされた。これからもコンベンションを続けられることを祈ります。

(山形／Pさん)

●今回、私はPA（音響）に抜擢していただき、多くの同志の方々と交わりを持つことができ、有意義な3日間でした。

PAをしながら聞いていた初日の基調講演「ティーンの子どもを失わないために」（ハル＆メラニー・ヤング夫妻）では、両親がどれだけ私たちを思ってくれているのかを改めて確認しました。

また、次の基調講演「イエスさまの再臨に向けての備え」

(ダニエル・ファンガー氏)で、神さまの贖いが近い、だからますます主のみこころは何であるかを追求し、伝道していきたいと思いました。

(山形／Qさん)

●初めての参加でしたが、温かい雰囲気の中、たくさんの恵みと励ましを受けました。ジョイス・イノウエさんの分科会で、息子のホームスクーリングに対するイメージがわかりました。実際にホームスクールをしている家族の証も良かったです。(兵庫／Rさん)

●親子で参加できて感謝でした。だいぶ世代交代していたのでしょうか、懐かしい方もいらっしゃったけど、初めてお会いする方も多かったです。

チアの会員を更新します。講演CDも頼みました。チアのお働きも、ますます祝福されますように！(神奈川／Sさん)

## 【子ども】

●賛美しているときに1番楽しかった。LITのみんなが楽しかったから来年もまた行きたいと思った。プチ運動会も楽しかった。(Aさん、9歳)

●おかしをもらって嬉しかった。(B君、6歳)

●たのしかった。(Cさん、6歳)

●はたとりたのしかったです。(Fさん、7歳)

●コンベンションもLITも初めて参加しました。全く想像が付き、(今から思えば度を越して)緊張しながら会場にきましたが、LITの先輩方がとてもリラックスしていて、「気軽にやっていいんだ～」と正直ホッとして進むことができました。

終始チルミニのお相手役で、特に2日目は自分が一番遊んでいたような気がします。一人っ子&教会にも同世代なし



なので、久しぶりに子ども同士でギャーギャー楽しく過ごすことができました。

(D君、14歳)

●4年ぶりのコンベンションで楽しく遊べました。1日目のチルミニでやったフラフープをくぐりぬけるゲームが一番おもしろかったです。歌うのも楽しかったです。

(Eさん、11歳)

●久しぶりのコンベンション開催で、チルミニに参加していた子どもたちがみんなLITになっていて、(自分も含め)4年でこんなに変わるのかと驚きました(笑)。恵まれた2日間で感じたことは、ホームスクーラーのクリスチャン同士で集まり、神と人に仕える大切さでした。(G君、15歳)

●4年ぶりにコンベンションに行き、友達と一緒にLITとして参加しました。私は、小さい子どもたちのお世話が昔か

ら好きだったので、チルミニの子どもたちと遊べてとっても充実した2日でした。

LITとして初めて参加したので、役目をちゃんと果たすることができるか少し不安でしたが、丁寧に教えて下さって感謝でした。1日目の朝に聖書の話を見ました。神さまに従う姿勢を学び、これからも色々な場面で実践したいと思いました。(Hさん、13歳)

●チアでできた友だちは親しみやすかったし、「ずっとチアにいたいな〜」って言うくらい楽しかったです。聖書のお話を聞いて、「親に対してすなおになろう」と思いました。

(I君、11歳)

●新しい友達ができ、楽しいゲームがいっぱいあったのでとても楽しかったです。聖書の話もすごく分かりやすかったです！ぼくも神さまの言うことやお父さん、お母さんの言うことを聞こうと

思った。(J君、11歳)

●初めてLITとして参加しました。4年ぶりに全国のホームスクーラーと時間を共にすることができ、本当に良かったです。

LITとしての働きは責任があり、神の家族と共に仕え合う体験は非常に有意義でした。LITとの交わりでも、神の国を目指すという同じ志を持って歩んでいることを感じることができました。良い機会でした。(K君、17歳)

●とても楽しかったです。正直に言うと、ほとんど知らない人しかいない所で初めは不安でいっぱいでしたが、たくさんの人を知り、仲良くなる中で、そんな不安はどこかへ吹っ飛びました(笑)。

LITの人たちの働きぶりに感動しました。中学生になる再来年はLITになりたいです。次のコンベンションが楽しみです。今後も続けてください。

(Lさん、11歳)



ホームスクーラー OG から  
花束を受け取る大垣昌夫慶大教授



大垣教授とチア・につぼんメンバーの  
皆さん（慶大三田キャンパスにて）

## 慶應大学 大垣昌夫教授の最終講義開催！

チア・コンベンションや白馬で、7年間にわたり「親子実験」を実施し協力関係にあった慶應大学経済学部の大垣教授が、3月14日（木）、定年退職前の最終講義を行われました。

講義には、チア・メンバーも招かれ、経済行動学のほか、大垣教授がキリストを信じるに至った証し等を聴き、大いに励まされたとの感想が寄せられました。

### 三田キャンパスでの最終講義

今回の企画は、親子実験の共同研究者であった赤林英夫教授が中心となり、三田キャンパスにて行われました。

講義タイトルは「共同体メカニズムの経済学 ―危機の時代にどう立ち向かうか―」。共同体メカニズムとは、市場メカニズムと異なり自発的な協力に基づく仕組みで、親子での協力行動も共同体メカニズムの一つということです。

### 蒔かれた種と祝福

大垣教授によると、コンベンションや白馬セミナーに参加された学生さんの中で「チルミニの賛美とその会場での親から子への愛に感激されたこ

とが契機になって信仰を持つようになり、洗礼を受けられた方がおられます」とのことです。

誠に感激です。大垣教授を通してチア・コンベンションや白馬セミナーに参加くださった学生さん、関係者の皆さんに、福音の種がたくさん蒔かれたことは、とても感謝です。

「親子実験」の研究の完成と、長くお世話になった赤林教授や皆様の上にもますますの祝福があることを心から祈っている次第です。

### 新天地・同志社大学へ ― ホームスクーラーたちもお世話になっているキャンパスへ

大垣教授は退職後、同志社大学で特別客員教授として任用されることが決定しておられるとのことです。

チアの子どもたちの中にも、一昨年、同志社大学を卒業し、去年のコンベンション東京会場に起業家社長として参加してくれた青年がいます。また、現役の同志社大学神学部の学生として、大阪会場で親子で分科会に登壇され、良きメッセージを語ってくれたホームスクーラー OG の学生さんもおられます。これからもいろいろとお世話になると思います。引き続き、ご指導をよろしくお願

いしたいと思っています。

## 参加者の感想

親子で講義に参加されたホームスクーラーママの成瀬由紀子さんからのレポートです。

「大垣先生を紹介された学長さんが、『宗教を議論することは避けられている中、宗教を研究に取り入れられたのは功績』とおっしゃっていました。講義の中でも同時多発テロをきっかけに信仰を持つに至った経緯に触れられ、その後もキリストについて講義の中でお話しされていました。その間、私は『どうぞ聞く方の心に聖霊様が働きかけてください』と祈っていました。

また、気になっていた、チアでの実験の結果はまだ分析途中とのことでした。いつか論文を読みたいです。

娘は、チア・コンベンションや白馬で、毎回、楽しく、実験参加させていただいておりました。今は大学生となった娘は『経済学と行動経済学の違いが面白かった』『ごくごく自然にご自身のキリストへの信仰の証を交えて話されていて素晴らしいと思った』『あのような証しのできるような発表を自分も大学でしたいと思った』と話しておりました。」

ご夫妻で参加された藤原樹里さんからのレポートです。

「経済学の講義ということで、難しいかな〜?と思いましたが、わかりやすくお話しくださいました。

経済とは、お金のことではなく、自分たちに与えられた価値あるもの(時間や環境・土地など)を配分すること、と教えていただきました

また、大垣先生が専門とされる『行動経済学』は、『経済人』を前提としないで『人間』を対象にしている、ということも印象的でした。『人間』は分け与えることをする、それは、利己的な『経済人』では考えられない、ということでした。

ユニークな実験で確かめていらっしゃることも面白かったです。チア・につぼんで7年にわたってなされた親子実験の目的も、深く知ることができました。

何よりも、講壇の上から、大垣先生ご自身の信仰の告白、証しをされたことに衝撃を受け、感動しました

9.11の事件をきっかけに、自分の中にある憎しみに気づき、ただ神様にだけ解決があると知った、ということでした。『信仰を持つ前は、寄付をすることが怖かった、すべてのことが偶然に起こる人生で明日は何が起こるかわからない、と思っていた。でも、父なる神様が人生のすべてを、良い目的を持って支配されていることがわかった。そして父なる神様は、タフ・ラブ(訓練する愛)で鍛える神様でもある』と講義で、話してくださいました

チア・につぼんの親子実験も、この『訓練する親の愛の確認の意味があった』と知って驚きました(と同時にわが家の忍耐の訓練はどうだったかな〜?と反省しました)。講義中、何度も、チア・につぼんと稲葉さんへの感謝の言葉を述べてくださり、私は嬉しく思いました。

学部長さんが挨拶で『大垣教授は、日本の経済学に宗教という要素を加えた点で、とても意義が大きい』とおっしゃったことが納得できました。

実験を体験し今は大学生となったAちゃんが、チア・につぼんを代表して感謝の花束贈呈ができて良かったです。」

## 福音伝道へのさらなる祝福を!

大垣先生を通して、たくさんの皆さんに福音の種が蒔かれました。ささやかでも、私たちも、一緒に労することができて、幸せでした。

大垣教授、赤林教授、慶應大の皆さん方、ご家族、関係者の皆さんの上に、神様の恵みと祝福が、ますます、増し加えられますように、お祈りいただければ幸いです。



# ♪ Voice & Mail ♪ ボイス&メール



チア・コンベンション 東京会場にて



●ご無沙汰しております。東京基督教大学神学部4年のAです。

去年は、私の面接特訓のために、大変お忙しいところお時間をいただきまして誠にありがとうございました。お陰様で、先日、電機メーカーから営業職として内定を頂き、就職が決まりました。去年の春休みから始まり、毎日就職活動を続けても、なかなかうまくいかないことが多く、悪戦苦闘の毎日でした。ようやく志望企業の内定を頂くことができました。

今後も、良き社会人として活躍できるようにお祈りに覚えていただけますと幸いです。私もチア・にっぽんのお働きに主イエス様の祝福がありますようにお祈りしています。

## Aさんの母・ホームスクーラーママのBさんより

17年住み続けた横浜を離れ、主人の母の介護

のため、そして母の救霊のために同居することとなりました。パウロ型自給伝道者の息子のAは就職しつつ、牧師となり、家の教会で礼拝を毎日曜にささげております。特に母の救霊のために、毎日家族で祈り、家庭礼拝をささげています。「あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。…わたしは背負う。…わたしは運ぶ。背負って救い出す」(イザヤ46:4)を心に刻む日々です。チア・にっぽんへの祝福を祈っています。



●広島県立観啓大学に合格できました。様々なアドバイスとお祈り、ありがとうございました。

通信制高校の担任の先生からは、「新しい大学だけど、人気があって難関すぎる。無理だから受験しない方が良い」という感じで言われてい

ましたが、神様の恵みの中で合格できました。感謝です。しかも、入試では、チア・コンベンションで示された通り、「ホームスクーリング」を前面に堂々と打ち出して合格することができたので、さらにうれしいです。

入試の際に提出した小論文「不登校問題は、ホームスクーリングが解決法！」をお送りします。ホームスクーリングについて書いた志望理由書も送ります。

小論文・志望動機書に「ホームスクーリング」を明記したので、面接試験でも「ホームスクーリング」がテーマとなりました。特に面接試験で印象に残った教授からの質問は、「ホームスクーリングを認めてもらうためにはどうしたら良いと思うか？」です。

私は、「ホームスクーリングを社会に認めてもらうためには、ホームスクーラーが認めてもらえるよう社会に出て活躍しなければいけないと思います」と答えました。

教授が小論文を読んで特に良いと思ったのが、最後の文章だったそうです。「しかし、私は逆に質問を返したい。『学校に行けば必ず社会性が身につくのでしょうか』と。学校教育の中で集団行動をすることにより社会性は育まれるという考えは、固定観念ではないだろうか」。この文章

に心から同意し、共感していただきました。

叡啓大学以外に行きたい大学がなかったので、3年前にこの大学ができたのも神様のご計画だと思えます。

私が通ったC通信高校のネットコースでは自由があり、自分のスタンスで学べるのでそれも良かったです。

昨秋まで、私はあまりホームスクーリングのことを入試の面接で強くアピールしようとは思っていませんでした。でも、昨秋のチア・コンベンションの分科会に参加して考えが変わりました。受験の直前だったので参加を迷いましたが、参加して本当に良かったです。さらに、もしLITの奉仕で分科会の録音に行くことがなければ、その分科会に参加していなかったと思うし、「ホームスクーリング」を前面に出しての小論文や志望書、面接等の戦略は与えられなかったです。「ホームスクーリング」に自信を持ち、堂々と入試で打ち出してよかったですし、チア・コンベンションに参加してよかったです。心から感謝です。

これからは周りにはいるホームスクーラーを励ますことを通して、チアやホームスクーラー家族に少しでも協力していけたらと思います。

(広島 Cさん)

## Cさんの入試小論文 「地方の不登校について考える」(抜粋)

私は、不登校を社会課題として選ぶ。教育基本法第一章「教育の目的及び理念」には「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」とある。このことから教育とは、人格形成を重視するものであることが分かる。学校に行くことができない

不登校児童生徒が増えている現代社会の対策として、特に地方の視点から、多様な教育について以下詳しく論じる。

私は、実際に地元広島県三次市の教育委員会に取材を申し込み、不登校の現状について話を伺った。広島県の中でも私の住んでいる三次市は、不登校児童生徒が多い。小・中・高等学校の都道府県別1000人あたりの不登校児童生徒数の上位10位は、都市ではなく地方が多い。三次市でも増えている。

教育委員会が主催している不登校児童生徒



向けの適応指導教室「せきれい広場」にも取材に行った。そこでは、8人ほどの子ども達が利用していたが、親が共働きなどで送迎できない場合、子どもが来ることができないという課題があった。

私は不登校自体が問題行動だと考えておらず、むしろ「学校に絶対に行かなければならない」という考えに必要以上に子どもたちが苦しめられる二次的被害に課題があると考え。文部科学省発行の2017年小学校学習指導要領によると、「また、不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を『問題行動』と判断してはならない。加えて、不登校児童が悪いという根強い偏見を払拭し、学校・家庭・社会が不登校児童に寄り添い共感的理解と受容の姿勢をもつことが、児童の自己肯定感を高めるためにも重要である」とされている。

しかし、未だに日本では不登校に対するネガティブなイメージは払拭されておらず、学校に行かない選択をしづらいのが現状だ。そ

れは、良く言えば協調性を重んじる、悪く言えば「出る杭は打たれる」という日本の国民性に原因があるのではないだろうか。

米国では不登校児童生徒数の調査はされておらず、日本ほど社会課題として認識されていない。米国のマサチューセッツ州で現在子育て中の親族に、不登校に関して質問した。すると、日本のように心理的な要因で行けなくなってしまう不登校児童生徒のケースはほとんど聞いたことがなく、その理由として、次のことが考えられるという。州や市、学校によっても制度に違いはあるが、米国は日本と比べて緩やかな学校教育であるがゆえに、先生にとっても生徒にとっても、ストレスが少ない。例えば、米国に在住の親族が通っている公立の小・中・高等学校では、14時30分までには学校が終わる。また、長期間の休みにおいて、宿題が全くない。あるとすれば、読書をする課題ぐらいだという。そして、クラスが少人数制でいじめ対策がしっかりしており、いじめがあった時には先生が必ずアクションを起こすような体制が整っている。学

校に最低1人はスクールカウンセラーが配置されており、相談に乗ってくれるということだ。

また、米国ではホームスクーリングという家庭学習が普及しており、学校に行かない選択肢が充実している。日本では、ホームスクーリングは不登校として捉えられているが、米国ではそうではない。米国では、正確な数は不明だが、2021～2022年には310万人のホームスクーラーがいるとされていて（※NHERI調査）、年々増加傾向にある。米国では、ホームスクーリングは教育方法の1つとして全ての州で法的に認められ、社会的にも広く認知されている。また、アメリカの高校生が受ける全米共通テストの結果をみると、ホームスクーリングの子どもたちは公立校の生徒たちに比べ、およそ20%あまり高い好成績を残している（NHERI・HSLDA調査・チア・にっぽんマガジン34号参照）ということが分かった。

私はホームスクーリングで育ち、現在も通信制の学校に所属しながら高校三年生現在まで続けている、いわゆる積極的不登校児童生徒だ。私がホームスクーリングを始める時には、大きな困難があった。市では初めてのことであったので、両親は教育委員会や学校から呼び出しを受け、何度か話し合いがなされた。今でも鮮明に記憶しているが、何としてでも学校に来させようとする大人達に違和感を覚えた。「集団行動に適応できなくなる。」「お子さんは行きたいと思っているでしょ。」と脅されているように感じた。

ホームスクーリングをしていて一番辛かったことは、人々の目線だった。初対面の方から学校名を聞かれ、ホームスクーリングだと答えると不信感を持たれ、可愛そうだという反応をされる。通信制の高等学校に入ってから、学校に所属していることで差別されな

いという安心感があったが、通信制だと聞くだけで、学校名を聞いたことを申し訳なさそうにする地域の住民に違和感を覚えた。なぜ、ホームスクーリングで育ったこと、通信制に所属しているというだけでネガティブなレッテルを貼られるのだろうか。

私は、ホームスクーリングによって多くの経験や活動をすることができた。旅行も平日に自由に行くことができ、家族と共に日本各地、また海外にも行くことができた。勉強については、自分に合った計画を立て、目標をもって取り組むことができる。私の場合、英語は他の教科より時間をかけ、得意科目として伸ばすことができた。一方、苦手科目も母が時間をかけて教えてくれた。

今回教育委員会の方への取材が終わり、最後に次のように言われたことに驚いた。「なぜ社会性がそんなにあるんですか。ホームスクーリングでこんなに社会性が身につけていて、あなた自身が（ホームスクーリングの教育は）大丈夫なんだよって実証してくれていますね。」しかし、私は逆に質問を返したい。「学校に行けば必ず社会性が身につくのでしょうか。」と。学校教育の中で集団行動をすることにより社会性は育まれるという考えは、固定観念ではないだろうか。

私は、ホームスクーリングは不登校の課題を解決する方法の1つだと考える。都市部のように選択肢の多くない地方でも、ホームスクーリングを誰でも自由にできるようになれば、本当の意味での不登校児童生徒数が減少するのではないだろうか。そのためにも、ホームスクーラーや通信制などのマイノリティな教育を受けている子どもたちは、先駆者として活躍していく必要がある。私は、何よりも多様な教育の選択肢を認める思想が広がっていくことが大切だと考える。

チア・にっぽん カレンダー

● レイモンド学園創立 20 周年記念式典

・ 2024 年 7 月 13 日 (土) 10 時 30 分  
 ・ チャーチ・オブ・ゴッド  
 東戸塚キリスト教会内 レイモンド学園  
 (横浜市戸塚区)

・ 記念講演：稲葉寛夫  
 ・ TEL 045-821-2517 (伊東美穂学園長)

● チア・コンベンション 2025

【大阪】 2025 年 11 月 28 日 (金) ~ 29 日 (土)  
 大阪羽衣青少年センター (予定)  
 【東京】 2025 年 12 月 5 日 (金) ~ 6 日 (土)  
 東京オリンピックセンター

【2023 年 8 月 ~ 2024 年 2 月会計】

- 収入 -	
献金	1,250,424
書籍・マガジン・教科書	296,579
会費	423,000
広告	3,498,000
DVD、Tシャツ	116,100
その他	10,368
コンベンション売上	3,999,454
	19,593,925
- 支出 -	
事務局経費	12,989,590
通信運搬費	466,847
印刷費	688,823
交通費・宿泊費	2,011,914
広告	259,240
コンベンション経費	5,047,679
	21,464,093
残高	-1,870,168
前月繰越	8,790,665
翌月繰越	6,920,497

※皆様からの尊いご献金と会費を  
心から感謝申し上げます。

こだわり自然食品・アレルギー対応食品のお店



管理栄養士があつめた 250 以上の厳選食品

「ここで買えば安心」な食品が集まっているお店



アレルギーをお持ちの方、グルテンフリーをしてみたい方、ベジタリアンやヴィーガンに興味がある方、オーガニックや無添加を選びたいという方のために、黄緑の看板の小さなお店をつくりました。日本各地の食の安全を求めている方には、オンラインショップからヨゼフの食品をお届けしています。

全て併設クリニックの管理栄養士が実際に作ってこだわって厳選した食品です。とっておきの「身体がよるごおいしさ」を必要な人に届けたい、その想いを叶えていきます。

● オンラインショップ  
<https://yozeffonline.com/>  
 organic.yozeff  
 スマホでチェック

〒263-0043 千葉県千葉市稲毛区小仲台 6-19-19 Myビル 1F

<会費・献金のお振り込み先>

■郵便振替 00190 - 3 - 35461  
 チア・にっぽん事務局

■銀行振込 三菱 UFJ 銀行 赤羽駅前支店  
 (普) 1746716  
 ホームスクーリング・ビジョン

チア・にっぽん事務局



〒 189 - 0013  
 東京都東村山市栄町 1-5-4-103  
 TEL 042-318-1807  
 FAX 03-6862-8648